

神長善次大使著「県勢発揚 11カ条を提案」日曜論壇 下野新聞 2009年4月12日刊を読む

## 県勢発揚11カ条を提案

### はじめに

栃木県と世界、それに東京、関西に人生の三分の一ずつを住み、それぞれの地から栃木県を見つめ、県勢の輝く発揚を願ってきた。その思いを 11カ条にまとめた。

1. 県姿を知ること。那須を扇の要に東南に八講山系、西南に日光足尾山地が走り、扇腹の南境を渡良瀬川と水戸線北部が区切る。関東平野、首都圏の北の奥座敷。縄文以来の歴史があり、中世には小山、足利、宇都宮、那須といった諸藩が割拠、連衡し、外の白河、常陸、上野、武蔵の諸藩と戦いつつこの地を保ってきた。
2. 豊かな自然を知り、活かすこと。豊かな水と緑と里山、深山。ミカンの北限、リンゴの南限、サクエ大量<sup>そじょう</sup>遡上の南限。地震、台風、雨、雪害の少ない地。それは農業、教育、観光、別荘、転地、老後生活に適している。
3. 産業立地の好条件を活かすこと。豊水、澄気は精密機械、先端技術に好条件。首都圏を背景に幹線道路と発送港、飛行場へアクセスもいい。
4. 優れた人材輩出の伝統を誇りとする。円仁、足利氏、山本有三など多彩。郷土の誇り、さらなる発展の糧として尊重すべきである。
5. 日本一の気構えを持つこと。イチゴ生産や那珂川のアユ漁獲日本一、産業生産、酪農などもトップ5内。技術、デザイン、知力とともに日本一にすると意欲が肝要。
6. 世界一を目指すこと。本県に世界一の精密医療品、食品加工機械製造がある。世界一の製品、デザイン、知的財産が出やすい環境を持ち、国内外から一流の企業を誘致する。
7. 当世随一の教育を行うこと。教育は良い環境に育つ。良い環境には、親、教師の愛と高い資質、整った自然、伝統ある文明と社会教育環境が肝要。次世代若者が希望、目標を設計できる基盤を大人の任務として整えたい。

- 8 . 当世随一の研究機関を持つこと。知見を世界に求め世界をリードする文明の研究が発展の基礎。各産業、エネルギー、環境、世界情報ネット、共同体共生プロジェクトなど進取な研究分析が必要。
- 9 . 安全と福祉の確認、増進を図ること。活力ある民意は、安全な環境と県民の健康保持が基本。安全には警備、雇用、食、老後の人間安全保障が含まれる。がんや脳出血のワーストリストの本県の汚名は返上したい。
- 10 . 自治と和魂の精神を有すること。民主主義は、土地の民の利益を守る条例が発意制定される自律自治の精神と合議の和魂精神が基本である。遅れた日本の「民主」主義をリードする気構えが必要。
- 11 . 地方力を取り戻すこと。戦後の欧米化、一極集中化、グローバル化で失った地方性を取り戻すことは 21 世紀日本の大課題。限界過疎が国土の 50 % を越えた現実を集落崩壊と嘆いている暇はない。埋もれた自然、伝統、産業の活性化を探る時である。

おわりに

かくして共同体の県益追求を基本に諸環境の充実を図り、世界レベルの教育、研究を求め、自らの歴史と伝統と特色を認識し、高い民意と富と知力を維持、増進する共同体を具現すべきである。

21 世紀をリードする日本の鏡となるべく栃木県勢発揚 11 カ条を提案する。

(元オマーン、ネパール大使)

[ コメント ]

神長大使のこの 11 カ条の御提案は、大不況下での栃木県の成長を考える上で大きな示唆を与えてくれる。「社会システム」としてどう「デザイン」するか。県民の総力を結集して取り組みたい。

- 2009 年 4 月 13 日林明夫記 -